



Flash News

〈フラッシュニュース〉

目次

- 「渡邊文二奨学金」制度を設立
- スペシャルオリンピックスのトーチ（聖火）が学内を
- 地域開発研究機構の設立
- 四日市市民講座
- 国立大学地域交流ネットワーク鳥取に参加
- 第14回日経地球環境技術賞
- ”三重カリキュラム”日本工学教育協会誌「工学教育」に掲載される
- 第3回 新しいものづくりセミナーを開催
- イノベーション・ジャパン2004に出展

お知らせ

・施設部から

「渡邊文二奨学金」制度を設立



本学は、加工食品メーカー「三昌物産株式会社」（代表取締役社長：安田篠氏・四日市市）の創業者で取締役相談役の渡邊文二氏から5000万円の寄附を受け、9月21日に、感謝状を贈呈しました。この寄附金を基に、来年度より生物資源学部学生のための奨学金制度が開設されます。平成17年度は、学部3年生2名及び大学院（博士前期課程）1年生1名の計3名に対して、学部生に年間60万円、大学院生に年間78万円の奨学金を2年間給付します。この奨学金は返還の必要がなく、これからの農水産業の発展と社会に貢献できる優秀な人材の育成に役立てていくこととしています。

写真右から：三昌物産(株) 取締役相談役 渡邊文二氏、豊田学長

スペシャルオリンピックスのトーチ（聖火）が学内を

2005年2月に長野県で開催されるスペシャルオリンピックス（知的障害者のオリンピック）第8回冬季世界大会のプレイベントとして、トーチ（聖火）ランが、10月4日に実施されました。多数の本学教職員、学生・市民が見守る中、聖火ランナー（本学学生）と、豊田学長、山田副学長らが聖火を手にもって大学構内を聖火中継地点まで力走しました。「イベント広場ゴール」に設けられた聖火台に点火した後、学長が「スペシャルオリンピックスが多くの方々に周知され、人に優しい地域社会が創造されることを心より望んでいます。」と熱く語られ、秋晴れのもと、参加者全員が輪になり「安濃津よさこい」踊りで心地よい汗を流しました。この催しは、学生運営委員会の企画で実現したもので、学長ランの実現は三重大学だけのことです。



地域開発研究機構の設立

本格的に地域に関する諸問題に取り組むために、従来の大学の枠組みを超えて、より機敏で機能性のある仕組みづくりが求められています。総合大学としての三重大学の潜在力をさらに引き出し、地域への貢献を目指すために地域開発研究機構（特定非営利活動法人申請中）の設立総会が9月29日に開催され、現在、来年1月の認可を目指して、着々と準備が進められています。地域開発研究機構は、大学発のシンクタンクとして、地域プランニング、産業開発研究、マーケティング調査、食・農・環境調査、教育分野での調査、福祉・人権調査、防災のための調査などの研究を行ないます。また研究のみならず、啓発や教材作成、スタディツアーの企画など学生や地域の人々に必要とされる様々な活動を広範囲に行ないます。理事長には児玉克哉・人文学部教授、副理事長には荒川哲郎・教育学部教授が就任予定です。役員会からは、亀岡孝治（情報・国際交流担当副学長）が理事として参加することになっています。

四日市市民講座

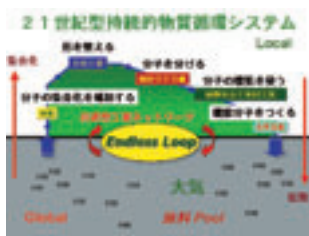
9月9日、四日市市文化会館において本学の企画による四日市市民大学が開講しました。開講に先立ち、渡邊副学長から本学は「地域圏大学として、地域に根ざし、世界に通じる大学を目指すことを目標にしています。また、四日市市とは、昨年10月に相互友好協力協定を結び『四日市フロント』を設置するなど同市と様々な取り組みをしています。」と挨拶がありました。この講座は、四日市市役所生涯学習課の強い要請で実現し、医学部の先生方が9月9日～10月21日の間6回にわたり、「健康に生きるためには・・・」について講演し好評を得ました。

国立大学地域交流ネットワークin鳥取に参加

9月18日に鳥取大学において、「国立大学地域交流ネットワークin鳥取」が開催されました。本学からは森野副学長をはじめとする4名が、三重県からは防災危機管理局地震対策室から1名が参加しました。全体会議では、地方大学と地域の活性化を目標として28大学が参加して設立された地域交流ネットワークが、今後どのように活動していくべきかが討議され、地域連携の事例紹介として「地方自治体と大学の協働による地域防災体制の確立に向けて」と題して、三重大学災害対策プロジェクト室(DMPO) (室長：畑中重光教授・工学部) と三重県の連携事業についてポスターセッションで紹介しました。またその発表は参加者の投票により3位表彰を受けました。



第14回日経地球環境技術賞



生物資源学部の船岡正光教授が、『植物系分子素材の持続的循環活用システムの開発』に対し日本経済新聞社より『日経地球環境技術賞』に選ばれました。森林資源を木材、紙として活用後、機能性分子素材に転換し、循環型材料として多段階的に活用する全く新しいシステムで、化石資源に依存しない、そして生態系を攪乱しない21世紀型のなめらかな資源循環システムとして期待されています。11月4日に東京大手町の経団連会館で表彰式が開かれます。資源、エネルギー、環境に関連した先端技術の中から、環境分野の研究を推進し、経済成長と環境保全を調和する業績として決定されました。

"三重カリキュラム"が日本工学教育協会誌「工学教育」に掲載される

工学部機械工学科は、「演習・実験・実習を重点配備した実践教育カリキュラム"三重カリキュラム"」を開発し、平成13年度から実施しています。このカリキュラムは、国内・外の基準に準拠しつつ、学生の主体的学習を促進し、基礎力・実践力を確保する仕組みを備えているところに特徴があります。このたび、その成果をまとめた学術論文が日本工学教育協会誌「工学教育」の52巻4号に掲載され、広く公表されました。

第3回 新しいものづくりセミナーを開催



生物資源学部(学部長：天野秀臣教授)は、9月22日に、学部戦略の一環として、(財)三重北勢地域地場産業振興センター(じばさん三重)、三重大学創造開発研究センター、三重大学地域連携推進室との連携により、「第3回新しいものづくりセミナー(生物資源学部)～新しい循環型社会へ向けて 生物に学ぶものづくり～」を開催しました。講演は、「21世紀型持続的社会における生物資源の役割と新しい展開」と題した生物資源学部長の基調講演を含む学部5名の教員と(株)三重TLOから1名の計6名で行いました。受講者は、企業の方々49名であり、それぞれの講演に熱心に聞き入っていました。セミナー終了後の交流会では、講師と受講者との交流が深まり、活発な情報交換が行われ、今後の共同研究の成果が期待されます。

イノベーション・ジャパン2004に出展

三重大学 知的財産統括室は、9月28日～30日まで東京国際フォーラム(有楽町)で行われた「イノベーション・ジャパン2004」に三重大学の特徴と知的財産統括室における取り組み状況の紹介を行うブースを出展しました。この「イノベーション・ジャパン2004」は大学発特許を企業で有効に活用してもらい、「産」「学」の振興に役立てようとするイベントです。参加者は3日間で約3万5千人と盛況でした。本学の独自の取り組みである「Mip特許塾」については全国的にも珍しい試みとして注目を得ることができました。



お知らせ

施設部からー キャンパスクリーン作戦 綺麗なキャンパスで学園祭を!

☆期日 平成16年11月4日(木) 15時～17時 ☆学生及び教職員の方の参加をお願い致します。
☆場所 上浜キャンパス全体 ※雨天の場合は11月5日(金)



投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-j@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に出向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾